

立春が過ぎて

R3.2.5

今年は、節分や立春の日がいつもと比べて1日早くなっていますが、なぜ早くなったのでしょうか。疑問に思った人はいませんか。そこで調べてみました。

立春や夏至、冬至といった暦の二十四節気は、太陽と地球の位置関係で決まり、例えば、春分は太陽が真東から昇る日のことで、こうした暦は国立天文台が決めています。

地球が太陽を1周するとちょうど1年になり、この1年というのは通常365日と考えますが、厳密には365.2422日となります。毎年0.2422日分多くなってしまうので4年に一回うるう年を設けて1日増やすことで調整しています。

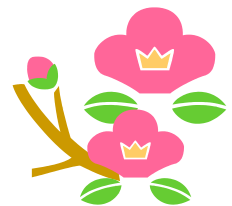
ところが。うるう年は1日(24時間)増えますが、4年に一回1日増やすと今度はその合計時間が太陽4周分より約45分ほど短くなってしまい、その結果、400年で3日ほど増やしすぎてしまうことになるので、うるう年を400年で3回減らすことにしたそうです。そして、100で割れる年はうるう年にせず、400で割れる年はうるう年のままにするといった調整をしているそうです。

この小さな誤差とうるう年の存在によって、立春の日が少しずつ変化するというわけです。分かるようで分からないかもしれませんので、しっかり計算して確かめてみてください

今回のように立春の日(節分の日)が変わるのは久しぶりのことで、前回変わったのは37年前の昭和59年(1984)、この時は2月5日(2月4日)でした。また、今回のように2月3日(2月2日)だったのは明治30年(1897)で、124年前のことです。

来年は、いつものように2月4日が立春になりますが、今後はしばらくの間4年おきに2月3日が立春になり、次回は2025年になるそうです。

さて、すでに2月3日を過ぎていますので、暦の上では春になっています。春は万物が動き出す季節と言われています。



本格的な春の訪れ、次のステージ<進級、進学>の始まりに間に合うように、「今」すべきことは何か、考え、動く、「即今、当処、自己」のときです。心、頭、体の準備をするタイミングです。とにかく一步一步着実に動き出しましょう。もう動いている人は、更に先へと歩みを進めましょう。

目標に向かい前を向き自ら動く、そして学ぶ、そんな充実した2月になることを期待しています。

1月24日(日)、来年度の1年生、第18期生の入学者選抜のための適性検査が行われました。皆さんにも校内の掃除や検査場の準備、検査後は、教室の復元に後片付けと大変協力してもらいました。皆さんのお陰で後輩となる受検生たちは、緊張しながらも、落ち着いて集中して気持ちよく検査に取り組めたのではないかと思います。ありがとうございました。 才鷹